

学生企画活動支援事業紹介

学生企画活動支援事業とは、学生が自ら企画する事業の内、優れたものに対して大学が経済的支援等を行い、学生自身に実体験させることで、学生の企画力・実践力・社会性を高め、優れた教員等の養成に資することを目的としたもので、平成16年度から実施しています。

今回は、採択された事業のうち、「学生オペラ」「なっきょんクッキングスタジオ」「Calligraphy in Melbourne ～外国人への書道の指導～」の活動を紹介します。

※「学生オペラ」については、前年度採択事業として実施した2015年3月22日公演の活動報告となります。

学生オペラ

2015年3月22日(日)、奈良教育大学講堂にて、学生オペラ「コジ・ファン・トゥッテ」を上演いたしました。学生オペラは昨年度で16回目を迎え、学生企画活動支援事業としては11回目の公演となりました。

公演のテーマは「濃い恋!それは故意!?あなたの心は誰のもの?～誰もが主役!オペラは皆こうしたもの～」でした。また、「Only one」を目標に、一人ひとりが個性を發揮し、全員が活躍することができるオペラを目指し練習を積み重ねてきました。

本公演ではチェンバロのBGMをつけたりオリジナルキャストを導入したりと、独自の取り組みを多くすることができました。また、外部のコンサートに参加させていただく機会をもったことで、より多くの出会いや経験を得ることができたと思います。そして、学生オペラの公演を無事終えることが出来たのは、学生オペラに関わってくださったすべての方々のご支援、ご協力のおかげです。先生方や音楽科卒業生の方々など、たくさんの方のご支援、ご指導をいただいたことで無事に本番を迎えることができました。皆様の温かい気持ちに支えられ、私たちは学生オペラの活動に取り組むことができました。パルテノン改修工事もあり、限られた状況の中ではありましたが、参加者一同、この活動を通して大きく成長することが出来ました。このような貴重な体験ができましたことに、大きな喜びと感謝の気持ちを感じております。

また、学生オペラは今年度も引き続き公演を行う予定ですので、是非ともお越しください! (記事:音楽教育専修3回生 井上 梨花子)



なっきょんクッキングスタジオ

なっきょんクッキングスタジオは、今年から始まった新しい企画です。家庭科教育専修の学生を中心に、他専修からの参加学生と一緒に活動を行っています。学年に関係なく意見を出し合い、この活動が充実したものとなるよう、日々話し合いを重ねています。

この活動は、将来教員を目指す学生の皆さんに、調理の際の基本技術や栄養に関する知識を、実際に調理を行う中で学んでいただき、将来の教員生活に役立ててもらおう、という企画です。

前期は、7月7日と9日に第1回目のなっきょんクッキングスタジオを開催しました。第1回目は、ハンバーグ、野菜入りコンソメスープ、付け合わせ、ご飯、淡雪寒天というメニューで実施しました。たくさんの方が参加してください、とても充実した2日間になりました。参加された皆さんからは、「楽しかった」「とても勉強になった」という意見をいただきました。私たち自身、たくさんの気づきや学びがあり、これからの活動がもっと充実したものとなるよう更に頑張っていきます。

後期には第2回目のなっきょんクッキングスタジオを予定しています。皆さんのご参加をお待ちしております!

(記事:家庭科教育専修4回生 宇佐美 典子)



Calligraphy in Melbourne ～外国人への書道の指導～

私たちは今回、「日本の伝統文化である書道を広めるとともに、漢字圏でない外国人向けの指導を実践すること」そして、「日本とオーストラリアの教育の比較などにより、相違点を探り、教師力、教育力を高めること」を目的とし、この企画を立ち上げました。現地の小学校、中学校、高校、大学での授業実践や、ワークショップを行ってきました。日本では決してできない、はじめての経験がたくさんありました。

漢字圏ではないため、漢字や書道の知識がほとんど無い学生に、しかも英語で、どう書道を伝えればよいのか。道具の説明、筆の持ち方、筆順など基本的なところから入りましたが、それだけでも本当に難しかったです。しかし、現地の日本語教師の方にサポートしていただいたとはいえ、私たちYAMATOのメンバー7人で授業を成功させることができたときの嬉しさは今でも鮮明に記憶に残っています。そして、私たちの大きな自信となっています。

また、漢字圏ではない国だからこそ返ってきた反応がありました。それは漢字一つひとつに意味があることを理解したとき、多くの学生がその意味について興味を示してくれたこと、そして、文字を文字としてではなく、線の集団だと理解して書いているという姿勢が見えたことです。いずれも日本では体験できないものでした。書道を通して交流できた、たくさんの方々との繋がりを大切に、今回の経験を生かし、これからも書道を広めていく活動ができたら、と思っています。

(記事:書道教育専修3回生 川脇 知夏)

